

【別紙】

一般社団法人 日本ボクシング連盟 令和3年度 第7回理事会別添資料  
2022.02.20（日）15:00～19:35

会長挨拶：本日はお休みのところご参加ありがとうございます。  
駒澤大学が提訴したスポーツ仲裁機構の判断を受けて中島理事、小山田理事、  
この場でお話しされたいことはありますでしょうか。

中島理事：別にありません。

小山田理事：スポーツ仲裁機構の仲裁に出席し、尋問等を受けました。非常に長い期間がかかりましたので、まだ学生たちには結果をしっかりと伝えていませんけれども、今回の結果を含めて駒澤大学として反省するべきところは反省をし、新たな気持ちでボクシング界に貢献できるようにやっていきたいと思っております。  
スポーツ仲裁機構への申し立ては一つの権利として行使したものですので、そこはご理解をいただきたいと思っております。北京オリンピックのドーピングの問題等でスポーツ仲裁裁判所の話題も出ていますが、一個人の意見として、競技団体や大きな組織を相手にすることは難しいと感じました。それらも含めて学生たちに説明をして理解を求めていきたい。駒澤大学の選手も頑張っていますので先を見据えて頑張っていきたいと思っております。ありがとうございました。

内田会長：スポーツ仲裁機構があるので提訴する権利はあると思います。しかし、お二人は理事という立場でありながら、理事会を訴えました。それが間違いであったと仲裁機構により明確に判断されたので、今回はお二人を厳重に注意したいと思います。関係者や選手の皆様には、今回の判断結果を含め何事も正しく伝えて下さい。私たち日本連盟の理事はボクシング競技の普及と振興を進める役割があると思っております。理事会では意見を出し合い民主的に決まった内容や方針に案しては皆がそれを尊重し協力し合って各自、尽力していくことが理事の責務であると思っております。理事すべての皆様にも、その事をご理解いただき今後とも日本連盟のためにご協力いただきますようお願い申し上げます。

坂巻議長：本日は、オブザーバーとしてアスリート委員会委員長の成松氏が参加しています。後の報告事項では発言をお願いすることになります。

1 議事の経過の要領及び議案審議の結果

1) 決議事項

1. 業務権限規程策定に関して

仲間専務理事：業務執行権限について明確化するためにこの規定を策定したい。

吉沼理事：担当理事が誰なのか明確に解るようにした方がよいのでは。

仲間専務理事：委員長の代わりに報告をする方が担当理事という理解でお願いしたい。

吉沼理事：担当理事は固定化ではないという理解でよろしいか。

仲間専務理事：はい。委員会に所属して、委員長の代わりに報告する理事ということになる。

坂巻議長：業務権限規程策定に関して反対の方は挙手をお願いします。

(反対意見なし)

2. 来年度コーチ設置事業対象者に関して

仲間専務理事：先ほどの業務権限規程に話を戻すと、例えばコーチ設置事業は専務理事が起案をして強化委員会・スポーツ科学委員会と案を協議して理事会に諮る形になる。

次年度のコーチ設置事業について、人件費や常勤で働いてくれているコーチのことなどを事務局長と協議して案を作成した。

変更点が2点あり、ナショナルコーチ等がハイパフォーマンスディレクタ、ナショナルヘッドコーチ、ナショナルチームコーチ、ナショナルチームスタッフ等に名称を変更し、JOCの雇用から謝金対応へ切り替わる。

次年度案は、シンコーチをハイパフォーマンスディレクタに、菊池理事は日章学園に戻るため常勤ではなくなり候補者から外れる。

ジュニアアスリート担当であった及川氏・中村氏、NTC 担当であった竹田コーチはナショナルコーチ A として、シンコーチとのコミュニケーション役としてロシア語通訳の垣内氏をナショナルコーチ B に、メディカルスタッフとして寺中トレーナー、情報・科学スタッフとして富岡氏を申請したい JOC からの謝金を超過する分は連盟が負担する。

素案には事務局の鈴木氏をナショナルチームコーチとして申請しようかと考えたが、強化委員会と話をする中で、競技歴もなく指導をしているわけでもない鈴木氏がコーチに適切かどうかという話が出たので外した状態で案を作成している。

JOC のコーチ業は、直接的な指導だけではなく遠征のサポートや事務処理も含まれるという事は確認済みである。まずはこの素案について審議していただき、後に鈴木氏を追加するかの協議をお願いしたい。また、遠征の日当と、事務局長の謝金についても審議・議決をお願いしたい。

菊池理事：鈴木氏は海外遠征に帯同してサポートをしてくれているので、コーチとして承認されれば連盟としてはプラスになると思う。

石橋理事：鈴木氏の件は、強化委員会から名前が挙がってこないとまずいのではないかと。

仲間専務理事：強化委員会からは判断ができないので理事会で話をする事になっている。

石橋理事：コーチの日当は財政が厳しくて廃止になったのに、ここで復活するのはなぜか。

仲間専務理事：日当は JOC にも申請ができるので事務局長と相談し捻出できる目途が立っている。強化委員会の方からも要望がある。

中村理事：鈴木氏は間接的ではあるが強化に携わっているので問題はないのでは。

仲間専務理事：コーチ B で申請すると月 8 日間、強化の仕事に従事することになるので十分に実態に沿うことになる。

小山田理事：私では判断しきれないが、「事務局員の給与に充てない」という規則への認識を持って運用していくことは必要である。本人の気持ちもあると思うので皆さんで判断してもらえればと思う。

仲間専務理事：本人は承認している。月 8 日であれば十分に要件は満たしている。

吉沼理事：業務をしっかり行って、対価を受け取るのであれば問題はないと思う。

井崎理事：JOC の謝金と日連からの給与とのメリット・デメリットは。

豊田事務局長：日連の雇用を継続し差額を給与とすることで社保等を補償していく。本人には説明を行っている。

菊池理事：伊田委員長は女子の強化委員に入ってもらいたいともいわれていた。

後藤理事：事務作業等も手伝ってもらえるので是非お願いしたい。

小山田理事：強化委員会では判断できないので理事会で判断してもらいたい。

中島理事：正しく報告ができれば問題はないと思う。

石橋理事：業務権限規定にあったように筋道を立てて提案してもらいたい。

坂巻議長：まず、来年度コーチ設置事業対象者に関して反対の方は挙手をお願いします。

(反対意見なし)

次に、鈴木氏をナショナルコーチ B に追加申請することに関して反対の方は挙手をお願いします。

(反対意見なし)

仲間専務理事：海外遠征をするコーチ・スタッフに日当を月/3,000 円を支払うことについて審議をお願いしたい。

小山田理事：選手に対しての強化費はないのか。コーチより選手に支払ってあげて欲しい。

仲間専務理事：今後検討して、書面で決議を行いたい。

坂巻議長：海外遠征時にスタッフに対して、移動日を含めない日程で日当 3,000 円の支給を行うことに反対の方は挙手をお願いします。

(反対意見なし)

仲間専務理事：豊田氏は 2019 年よりアドバイザーとして、2020 年 8 月からは事務局長として日連の事務レベルの向上と、助成金や補助金・スポンサーの獲得に尽力していただいている。また雇用ではなく謝金でお願いしているが、その成果から謝金の増額を提案したい。インセンティブも含めて検討をお願いしたい。

井崎理事：前年より成果をあげていただいた場合はインセンティブをつけたほうが、モチベー

シ高く業務に従事してもらえないのではないか。

坂巻議長：4月より豊田事務局長の謝金を月50万円（税抜き）とする。成果が上がった場合は理事会でインセンティブを検討し追加することに反対の方は挙手をお願いします。  
（反対意見なし）

### 3. 役員候補者選考委員会に関して

仲間専務理事：前回の理事会で「役員候補者選考方法等に関する規程」を承認していただいたが、文言等の修正について議決をいただきたい。

吉沼理事：コンプライアンス委員会の規程には、これを審議する機能はないので、コンプライアンス委員会の規程を変える必要がある。

仲間専務理事：コンプライアンス委員会規程第2条2に「役員候補者選考方法等に関する規程第2条に基づき、役員候補者選考委員の候補者を選任することを業務とする」を追加することを書面決議で諮りたい

石橋理事：規程を変える時は新旧対照表を提示してもらいたい。

坂巻議長：文言の修正について反対の方は挙手をお願いします。  
（反対意見なし）

仲間専務理事：役員候補者選考委員会規則について審議をお願いします。

坂巻議長：役員選考委員会規則について反対の方は挙手をお願いします。  
（反対意見なし）

仲間専務理事：コンプライアンス委員会で作成した役員候補者選考委員の名簿について審議をお願いします。

石橋理事：この会議の議事録はあるのか。

仲間専務理事：時間もなくてそこまで手が回っていませんでした。

石橋理事：原案は誰が作ったのか。

仲間専務理事：内部については私です。あと女性を1名入れる必要があったので顧問の中から選ぶことにした。古谷氏についてはJOCから推薦してもらった。

石橋理事：どのような議論があったのか。

仲間専務理事：石堂委員長からは顧問は内部と捉えられるかもしれないというご指摘があった。時間の調整が難しかったのでラインのやりとりで議論し賛同していただいた。

石橋理事：私のイメージでは監事は別にして、正会員以外は外部というイメージであった。有識者枠の永岡氏と門田氏は外部でよかったのではないかと。

中島理事：四橋氏は47分の1だが誰が推薦したのか。

仲間専務理事：私です。

中島理事：これは理事会で相談するべきではないのか。

仲間専務理事：これは理事会のメンバーを決めるものなのでコンプライアンス委員会で起案しなければならない。それを本日お諮りしている。

石橋理事：正会員枠はブロック委員で決めた方がよいのでは。

仲間専務理事：ここで否決されたら差し戻すことになります。個別に決をとっていただければ。

吉沼理事：理事候補者には資質が求められるが、役員選考委員は曖昧である。全国の正会員は正会員枠があることも知らないと思うので一度聞いてみてもよかったのでは。

仲間専務理事：役員選任まで多くのステップがあり恣意的要素は排除される。どこかで誰かが案を作成する必要はある。

吉沼理事：情報は広く集めた方がよいという事を言いたい。

坂巻議長：役員候補者選考委員について

古谷 利彦氏について反対の方は挙手をお願いします。  
（反対意見なし）

永岡 桂子氏について反対の方は挙手をお願いします。  
（賛成2 1 反対1）

門田 治氏について反対の方は挙手をお願いします。  
（賛成1 9 反対3）

四橋 英児氏について反対の方は挙手をお願いします。  
（賛成1 7 反対5）

岩井 翼氏について反対の方は挙手をお願いします。

(反対意見なし)

坂巻議長：賛成多数により 5 名の委員について議決します。

岩井監事：今後、選考委員会が開かれ我々で役員候補者を選んでいくことになるが、最も重要なのは役員候補者として誰を推薦するかという事になる。規程の中では第 6 条に役員候補者の推薦というのがあるが、推薦というのが直接総会に諮るものではなく、委員長あてに提出する別紙があるので、選考委員宛に素案を積極的に出していただかないと我々も情報が不足しているので難しい部分がある。理事の皆さんから積極的にご推薦をいただきたいと思います。

#### 4. 来年度事業計画案及び予算案について

仲間専務理事：予算に関しては豊田事務局長と小池さんより、年間予定については池端理事よりお願いします。年間活動計画書については事前にお配りしていますのでご意見があればお願いします。

豊田事務局長：昨年度はコロナで活動ができず事業資金が少なかったが、今年度はある程度、海外遠征等を実施することができた。来年度も同様に実施できることを前提に予算を作成している。

経常収益では、会費等は横ばいですが、助成金が大きくなる。昨年度の予算は 3300 万円くらいで決算は約 4600 万円でした。今年の実績から行くと約 7000 万円まで増額させて、さらにコロナの対策費や新しい生活様式の強化活動として動画などを作成して璃しており、そのような予算がついているので来年度も強化の方はそれらを見越して 9000 万円くらい取りにいきたいと見込んでいる。

スポーツ振興基金は全日本選手権や社会人選手権の大会予算ですが、一昨年は事務レベルが 3 ということでカットされていたものがレベル 1 になったので満額もらって全日本 600 万円、社会人も 400 万円くらいを見込んでいる。くじ助成はマスボクシングやドーピング関連の予算だが、来年度は育成資金も獲得して強化で使ってもらいたいと考えている。受取寄付金は美津濃財団さん、スポーツ庁の感染防止資金を申請し獲得したいと思っている。

総事業費としては昨年の予算 1 億 4000 万円に対して 1 億 8660 万円を計画する形になる。

経常費用では基本的には強化の資金が大半である。昨年はコロナでストップしていた登録システムを進めており何とか 4 月から稼働できる見込みが立っている。こちらの費用を見込んでいる。あとは委員会事業費を計上しているが、満額は出せないがアンチ・ドーピング委員会に 55 万円、広報委員会に 40 万円、スポーツ科学委員会に 60 万円、審判部に 40 万円、プロアマ連携の会議費として 25 万円で合計 220 万円を見込んでいる。

坂巻議長：経常度予算案について反対の方は挙手をお願いします。

(反対意見なし)

池端理事：次年度の大会計画について、すでに日程等が決定しているものがほとんどだが、8 月の大学王座・UJ 王座は持ち回りで関東での開催となるので会場と日程が決まったらお知らせ願いたい。前回の理事会で検討事項となっていた全日本社会人と女子ジュニアは 9 月に紋別で開催していただけることになった。翌週の 3 連休は青森県で全日本マスが開催されるので、各ブロックの全日本予選の日程を調整してもらいたい。キッズボクシングの王座統一戦はプロ側と調整中で、同時開催をしていたゴールデンキッズマスボクシングは全日本マスボクシング大会に統合する。3 月の高校選抜大会と UJ フレッシュ大会は北部九州で開催するが福岡県で調整をしている。主管を九州連盟とすることも視野に入れて調整をしていく。

坂巻議長：来年度予算案について反対の方は挙手をお願いします。

(反対意見なし)

坂巻議長：次年度の年間活動計画書について反対の方は挙手をお願いします。

(反対意見なし)

#### 5. BOXE プロジェクトの収益に関する取り扱いについて

内田会長：BOXEプロジェクトについて、総会と理事会で承認いただいたが、この収益については理事会毎の開催都度に報告をして行く。報告の方法に案があれば対応して行きたい。(質疑・議決なし)

#### 6. ウイニングのグローブ・ヘッドギアの日連公認について

菊池理事：今までは公認の扱いではなく、スポンサーとしての協力で一定の金額をいただいていたが、今後、グローブの10オンス、12オンス、ヘッドギアを公認として認めて欲しい旨の申し出があった。他社のグローブ等々と同じように、販売数を報告するようにして欲しいとのこと。また、UJのグローブは通常のグローブと何ら変わりはないので、この規格を廃止し、公認をいただきたいとのこと。本日議決をいただければ、事務局に契約書を持参する旨であった。

吉沼理事：アディダスと同じように認定作業を行うということか？

ウイニングのグローブが公認されなかったのは、旧AIBAがナショナルレベルで使用されなければならないとしていたからであるが、大陸レベルでの使用となったことから、ウイニングが使用できるようになった。東京都連で先日ウイニンググローブを購入したところなので、それは使用できるようにお願いしたい。

安川理事：科学的な数値の基に認定して行かないのか？ボクシンググローブを製作しているメーカーは多く、国際的に公認されていないメーカーもあり、参入してきた時の対応を検討しないといけないのではと考える。

中島理事：吉沼氏が言ったが、関東でウイニングのグローブを購入したところなので、それは使用できるようにして欲しい。

坂巻議長：ウイニングのグローブ・ヘッドギアの日連公認について反対の方は挙手をお願いします。(反対意見なし、満場一致で可決)

菊池理事：審判部でも規程の見直しをお願いします。

林田理事：承知した。

#### 7. 競技規則の改訂について

林田理事：新旧対照表のとおり、IBAの競技規則の変更に伴うものと、マスボクシングの競技実施に伴う変更である。

項目	改定後	改定前
競技規則記載すべて	IBA 競技者 〇〇名	AIBA 選手 〇〇人
前文(UJの規程を削除)	国内の一般社団法人日本ボクシング連盟(以下日本連盟)の管理するボクシング競技は、全て本規定を適用し、AIBAテクニカル・コンペティションルール・R&Jレギュレーションマニュアルを準用する。国内で開催される競技会は、全てこの競技規則に従って実施しなくてはならない。ただし、ブロック大会及び都道府県大会では第2条医学的適格性に抵触せず、安全性の低下がなければ、ルールの根本を崩さない範囲での変更は認められる。また、マスボクシング競技等では別に規程をもうける。	国内の一般社団法人日本ボクシング連盟(以下日本連盟)の管理するボクシング競技は、全て本規定を適用し、AIBAテクニカル・コンペティションルール・R&Jレギュレーションマニュアルを準用する。国内で開催される競技会は、全てこの競技規則に従って実施しなくてはならない。ただし、ブロック大会及び都道府県大会では第2条医学的適格性に抵触せず、安全性の低下がなければ、ルールの根本を崩さない範囲での変更は認められる。また、(UJ)以下の年齢の競技やマスボクシング競技等では別に規程をもうける。
第1条競技者の区分(3)体重による区分	① IBA エリート男子 ② IBA エリート女子 ※競技規則改訂版参照	

追記		
第2条 登録の義務と適格性 追記	すべての選手・セカンド・役員は日本連盟に登録し、または特に日本連盟が認めたものでなければ競技会等に参加できない。 実戦競技出場は練習開始6ヶ月を経過し、競技参加可能の証明を指導者から受け、「実戦競技出場証明書」を日本連盟に提出しなくてはならない。 実戦競技とマスボクシングは、同じ年度に登録することはできない。競技者が登録を変更する時は「登録変更届」（別紙10）を提出しなくてはならない。	すべての選手・セカンド・役員は日本連盟に登録しなければ競技会等に参加できない。実戦競技出場は練習開始6ヶ月を経過し、競技参加可能の証明を指導者から受け、「実戦競技出場証明書」を日本連盟に提出しなくてはならない。
第9条(6)カウントリミット	① 1ラウンドに3回。1競技で4回とする。 ② UJは1ラウンドに2回。1競技で2回とする。	① シニア男子は1ラウンドに3回。ただし、1競技でのカウントリミットはない。 ② シニア女子・ジュニアは1ラウンドに3回。1競技で4回とする。 ③ UJは1ラウンドに2回。1競技で2回とする。
第30条 競技者の服装 (6) (7) (8) 追記	(6) スパンコールやタッセルなどの装飾は禁止とする。 (7) 当日の健診で認められれば、ベルトラインより下にテーピングを使用することができる。 (8) 膝にかからない圧迫型のハイソックスを使用することができる。	

小山田理事：IBAの世界選手権で、膝のサポーターを使用していた選手が居たが、日本のルールとしてどうしていくのか検討して欲しい。

林田理事：サポーターについては認めない旨を医事委員会に確認を取った。再度確認する。

吉沼理事：競技規則とは直接関係ないが、実戦競技の登録料は、マスボクシング競技より高いが、実戦競技からマスボクシング登録に移行する場合は登録料を返還しないことになると思うが、逆の場合は不足額を徴収されることで良いか。

豊田事務局長：事務局で決めることが出来ないなので、理事会で決めて欲しい。

菊池理事：以前に文書を出しているの確認したが、不足分を徴収することとしている。

坂巻議長：競技規則の改訂について反対の方は、挙手をお願いします。

(反対意見なし、満場一致で可決)

マスボクシング登録から実戦競技登録に変更する場合は差額を徴収することに反対の方は挙手をお願いします。

(反対意見なし、満場一致で可決)

## 8. 審判規程の改訂について

林田理事：国際審判員の派遣について詳しい規定がなかったこと、公認審判員の復帰に関する規程がなかったことから、審判規程に追記し定めた。

菊池理事：国際審判の派遣は、国際審判員個人に依頼が来ているはずである。

小坂理事：IBAが個人の資料を持っていて、技量や参加回数とかを加味して、連盟を通さずに個人に連絡が来ているはずである。

池端理事：宮崎のインターハイで資格を取得した1スター審判員とかの育成を考慮し、ローカ

ルな国際大会にチーム帯同させるための基準である。

坂巻議長：審判規程の改訂について反対の方は挙手をお願いします。  
(反対意見なし、満場一致で可決)

#### 9. 令和3年度臨時総会の日程に関して

仲間専務理事：令和4年3月6日(日)13時からで開催したい。  
決議しなければならないのは、年間計画と予算。  
今回理事会での決議事項等の報告になる。

坂巻議長：令和3年度臨時総会の日程に関して反対の方は挙手をお願いします。  
(反対意見なし、満場一致で可決)

#### 2) 審議・報告事項

#### 10. 公益認定化に向けた進捗状況に関して

仲間専務理事：富岡マネージャーが力作の資料を作成してくれているので順調に進んでいる。内閣府からの評価も高いので、近いうちに公益認定されると思う。

#### 11. その他

##### ①アスリート委員会からの要望

成松委員長：先日、アスリート委員会で会議を行った。大きく三点の要望がある。

①国際大会の選手選考方法を男女同じにして欲しい

②国際大会にドクターを帯同について

③アスリート委員会でこれまでに要望してきたことが全て実現可能か意見をいただきたい。

##### ①国際大会の選手選考方法を男女同じにして欲しい

仲間専務理事：アジア大会選考について、一部の理事が把握できていないと思うので補足する。  
女子の選考については3階級となった。並木選手と入江選手については確定している。もう一人を全日本選手権優勝者であるライト級の田中選手かウェルター級の津端選手にするかとの話が出ている。田中選手がU22で良い結果が出なかったため、津端選手が良いのではないかという話も出ている。ライトウェルターの鬼頭選手が選考に入っていないが、鬼頭選手はライト級での出場希望があり、田中選手か該当の選手とスパーするかという話も上がっていた。  
ライトウェルター級が選考枠に入っていないことに、鬼頭選手から連盟に対しての不届が上って来ている。

後藤理事：JOCからオリンピックで活躍したフライ級とフェザー級にプラスもう一階級を増やす旨の連絡があった。その階級はオリンピック階級の中から日本連盟で決めて欲しいとのことで、ライト級かウェルター級ということになった。

女子強化委員会では、鬼頭選手をライト級で出場させてはどうかの話も出たが、全日本選手権の優勝者基準から、鬼頭選手は選考に入っていない経緯がある。

成松委員長：男子では、選考する階級が63kg級であるが、昨年度の全日本選手権で64kg級の優勝者である北本選手、60kg級優勝者の西山選手の二人で選考される60kg級はオリンピック階級ではなく、アジア大会でも実施階級ではない。このことについて、どう思われるか。

後藤理事：そもそも男子と女子は階級も同じではなく、別の組織と考えていた。男女一緒という基準で考えていなかったため、女子強化委員会で決定した結果がこのような結果となった。

成松委員長：アスリート委員会として、男女で選考方法が違う他競技を調査したが、他にはそのような競技はなかった。つまり、男女で選考方法が違うことはよろしくない。だから、今回を機に、同じ様にすべきではないかと考えている。

後藤理事：他の競技にないということは存じてなかった。今後同じように選考して行かなければならないと感じる。

仲間専務理事：仮に公平ということを考えれば、男女同一の条件で選考することが望ましい。JOCからの情報がどの時点で連絡されるのかにより、選考対象になる大会の発信が間に合わなくなることがある。近い階級の選手、強化委員会の選ぶ選手、出場希望のある選手で選考会を開催することが公平である。すべての大会において、公平な選考会対象にするには直ぐには難しいが、男女の強化委員会で協議して貰えるように理事会からお願いするしかない。今日の理事会では、階級のことも含めて、近い階級の選手で選考会を実施する等、女子強化委員会に差し戻すかどうかを検討して貰うことしかできない。

成松委員長：階級の実績があるかないかについて、60 kg級の西山選手は63 kg級の実績はない。でも、実績に関してはあまり気にすることではないと考えている。女子が選考会を実施しないとすると、ライト級、ウェルター級を決めるのに、何を基準にしてどうやって決めるのか。

後藤理事：ライト級、ウェルター級でそれぞれスパーリングを行って、最終的にシンコーチに決定して貰うことになっている。

成松委員長：どちらも良かったらどうするのか。それでもシンコーチに任せるのか。

後藤理事：シンコーチに任せる。それしかない決断になった。

成松委員長：シンコーチに任せるなら、強化委員で話し合う必要はない。皆で話し合っただけで決める。女子強化委員で話し合っていないではないか。

仲間専務理事：スパーリングをして、女子強化委員で話し合っただけで議決をとることが成松委員長の提案で良いか。

成松委員長：男子は選考会をして、女子は選考会をしない事実を日本連盟のブログで発表できるか。おかしいと思うのが普通の感覚だと思う。

小山田理事：今回のアジア競技大会の選手選考は難しいことが根底にある。何故ならば、アジア競技大会は、日本の中で選考すれば出場できる大会である。オリンピックみたいに、アジア、オセアニア予選があったり、世界の予選があったりではない。だから強化委員会の中でしっかりと選考をしななければならないと男子強化委員会の中ではあった。その他にJOCに対し、ボクシング連盟としてはこれだけの選手を連れて行きたいが、どれだけの枠をくれるのかという折衝をするが、メダルを確実に獲れる階級と獲れるであろう階級の5枠をお願いして、5枠をいただいた。世界チャンピオンの坪井選手、岡澤選手は外せない。森脇選手は、世界選手権の権利も獲得して全日本選手権でも優勝したので、この3人については異論が出ないだろうということで選考が決定した。残りの57 kgで堤選手と原田選手、63 kgで北本選手と西山選手の選考を行うこととなった。誰もが納得するような形で進んでいる。女子については4枠を希望したが、3枠しか貰えなかった。51 kgと57 kgはオリンピックのメダリストなので異論は出ないだろうが、60 kgと69 kgのどちらにするかについては、どこまで選手達に伝わっていただろうか。女子については、もう一度強化委員会の中で議論して貰った方が良いと思う。成松委員長の意見は貴重であり、選手の意向はとても大事なものである。

成松委員長：男子についてはわかりやすく納得している。アジア大会は4年に一度の大会で、オリンピック級の大会なので、男子も女子もしっかりと明確な基準で選考して欲しい。他競技の選考基準は、WEBサイトで公開されている。日本連盟も掲載することで信頼度が増すのでお願いしたい。

小山田理事：IBAとIOCの関係があって、階級の決定が難しいので御理解いただきたい。なかなか明記は出来ないがこの大会がこの大会の選考基準になってくる旨は掲載したいと思う。

成松委員長：この件については、女子強化委員の方で話しあっていただけなのか。

仲間専務理事：理事会の方から、女子委員会に対して再協議をお願いする。

後藤理事：女子強化委員会で決まったことは、選考委員会に投げかけている。今後、男子強化委員会の助言をいただき、選手が嫌な気持ちにならないようにやって行きたい。

## ②国際大会にドクターを帯同について

成松委員長：海外のドクターは処置の良い時と悪い時があるので、出来るだけ帯同して欲しい。



仲間専務理事：世界選手権の時も U22 の時も帯同の話はあって、帯同しても良いと言ってくれるドクターは居たが、残念ながら 14 日間の隔離の問題に対応できる方が居ないことで、人材的な理由により派遣できなかった。今後、オリンピックやアジア大会については JOC 派遣のドクター帯同も出来るが、IBA 主催の世界選手権等には日連からドクター派遣となる。成松委員長が求めているのは、日連派遣のドクターの話しだと思う。ドクター派遣については、スポーツ科学委員会が担当になる。医事委員会は、国内大会の健診や大会業務になる。選手の要望や予算に余裕があれば帯同をしたいドクターは居るので前向きに話して行きたい。

成松委員長：よろしくをお願いします。

③アスリート委員会でこれまでに要望してきたことが全て実現可能か意見をいただきたい。

仲間専務理事：アスリート委員会で協議したことを具体的に書面化して提出して欲しい。

成松委員長：再度提出させていただく。

菊池理事：先ほどの男女の選考方法の件について、私が思うには、男女の強化委員会がもっと擦り合わせをしてくれれば良かったと思う。女子強化委員会は、JOC から二つの階級からどちらかを決めて欲しい旨の中で、相当な議論をしていた。どちらの選手も知っている中で、実績や色んなことから、どちらかに決めるということは非常に困難なことだと思う。最終的にはアジアで分析して、どちらの階級が通用するのかをナショナルコーチに決めていただくのが良く、階級を決めて貰えれば選考会をしたい旨の考えであったことは御理解いただきたい。

成松委員長：女子強化委員は 10 名だったと思うが、シンコーチを入れて 11 名で、投票でも良いかと思う。

菊池理事：女子委員が偶数だったとして、シンコーチが最後の一人なので、シンコーチが決めれば良いのではないか。

成松委員長：投票で、女子委員会 10 名がライト級を選び、シンコーチがウェルター級を選んだ場合、これはおかしいことなのか。私はおかしいと考える。

菊池理事：アジアの状況を研究するのもコーチの仕事なので、そこの意見を聞くことは大きいことだと思う。女子委員会の中には、選手のことは理解しているが、アジアの状況を理解できていない人も居る。私個人の考えでは、最後はシンコーチの意見を聞くべきではないかと思う。

仲間専務理事：女子委員会の中で議論して決められなかったので、シンコーチに決めて貰おうということになったのだと思う。

成松委員長：今回理事会に参加して、議決は過半数を超えているから議決されたという認識であしかない。この考えで良いと思っていたのが良いか悪いのか。

石橋理事：成松委員長の考えが正しいと思う。私的には、スパーリングをやって、シンさんの意見を聞いて、女子委員会で決議するのが本当ではないか。女子委員会で決まらないから、シンコーチに決めて貰うことに納得が出来ていないのだと思う。

成松委員長：それが一番公平だと思う。

仲間専務理事：女子委員会で再度協議して、シンコーチと決めて貰うことでどうか。

成松委員長：それで良いと思う。

②女子普及委員会からの要望

仲間専務理事：一つ目は、全日本社会人選手権に女子のカテゴリーを増やして欲しい要望である。

菊池理事：社会人に女子種目が入ることは大賛成である。開催地側に負担がなければ、日本連盟的にも有益であると思う。

安川理事：世界的にも男女平等である観点から進めて行くのが望ましい。大会開催については男女差があるので、今後の検討課題である。

仲間専務理事：決議については、書面決議としたい。

仲間専務理事：二つ目は、全日本女子ジュニア選手権にマスボクシングを加えて欲しい要望である。

菊池理事：マスボクシング大会は別に開催しているが、そのカテゴリーから女子だけを抜き出して開催したい要望なのか、マスボクシング大会はそのまま、全日本女子ジュニ

ア選手権にマスボクシング競技を加えて欲しい要望なのか。

後藤理事：女子の普及も兼ねることと、保護者が実戦に前向きでない選手のことを考えてのことで、女子の大会にマスボクシング開催したい旨の要望である。

小坂理事：試合の機会が増えるのは凄く良いことだと思う。全日本社会人選手権に女子選手権が加わったことだけで競技時間はかなり厳しい状況である。全日本社会人に女子カテゴリーが加わることで運営が困難になるのではないかと思う。マスボクシング大会は大会としてあるので、そちらに参加したので良いのではないか。

安川理事：選手権大会でチャンピオンシップを決定する大会なので、マスボクシングを加えることは困難だと思う。

仲間専務理事：決議については、書面決議としたい。

### ③2021年度ランキングについて

仲間専務理事：この案件は報告なので、意見、疑問等あれば言っていただければと思う。

中村理事：以前の総会でポイント制になったと思う。ジュニアについては、今年度はインターハイだけのポイント制となる。以前と大きく違ってチャンピオンがなくなって、1位、2位、3位という形になっている。ジュニア、ユース、UJの委員の話の中で、今まで年一回だったのを、三回ぐらいはポイントで発表して、合宿や遠征の選手選考にするのが馴染むだろうという意見であった。エリートのランキングについては、以前と同じ形式のランキングなので体裁が悪いと思う。ポイント制の流れから、再検討をお願いしたい。

小山田理事：体裁が悪いということはどういうことなのか。

中村理事：ジュニアについては、順位だけである。

小山田理事：ランキングポイント制の話については、理事会で了承された後に男子強化委員会で話しをして、エリートとしてはポイント制が馴染まないということになり、会長宛に意見書を出して取り下げをしている。今年度は、全日本選手権とオリンピックと世界選手権しかなかったのが、公平に評価する大会がなかった。

内田会長：文書は読んだ。小山田理事の言うとおりのポイント制は馴染まないと思った。国際大会をランキングにどう反映してくれるのかと思っていたが、反映は難しいのか。

小山田理事：今まで国内の大会で評価して来た。全日本選手権のチャンピオンがランキングのチャンピオンとなる。全日本選手権時に世界選手権やオリンピックなどの大きな大会に出場していた選手は1位のランキングとなるのが慣例である。

内田会長：その考えを変えるのは難しいか。世界大会の出場をランキングに加味出来ないか。

小山田理事：世界大会に出場した選手はダントツになるので、ランキングの意味がなくなる。

中村理事：ポイント制がエリートには馴染まない話は、強化委員会に情報を共有したのか。

小山田理事：エリートの会議の中で話しをした。全体には共有していない。

ジュニアにはポイント制が合致しているのかもしれない。

中村理事：この課題を以って、全体の強化委員会でも協議をお願いしたい。

佐藤理事：ランキングの意義は何か。何を表している様にとらえれば良いか。

小山田理事：過去から見て、単純に大会の成績だと思う。

仲間専務理事：かなりディープな話しなので、ここで話しの結論は出ないと思う。

### ④登録システムについて

豊田事務局長：システム内容は、以前話したものとほとんど変わっていない。四月からの登用に向けて、再度資料を確認して欲しい。

### ⑤総務委員会より UJ フレッシュ大会における補足説明について

池端理事：今年度から UJ 大会の開催様式が変わった。

進めて行く中で、二つの問題点が出てきた。

①今回シード権を獲得してしまったら、競技の機会が減る。

②この冬から夏にかけて、成長期で体重を維持することが難しい。

このような問題が出てきたので、今回の大会が始まるまでに、補足の文書と UJ フレッシュ大会から全日本 UJ 王座決定戦までの流れを各都道府県に送付する。

⑥年間表彰について

仲間専務理事：今回の理事会に間に合わなかったので、書面決議で行う。

⑦テレビドラマについて

井崎理事：高校アマチュアボクシングを題材にしたドラマが4月から始まる。テレビ朝日で、全9話になると思う。ドラマと映画の「ヒーロー」でコンビを組んだ、木村拓哉さんが主演、福田 靖さんが脚本となる。

これから撮影に入っていくが、台本を私がチェックしている。駿台学園の関口先生が技術の監修を行ってくれる。協力として日本ボクシング連盟、監修として関口先生がクレジットされると思う。

エキストラについて内内で打診されているので、大学ボクシングの方に協力をお願いするかもしれない。

以上